

神戸市立定時制高校のあり方検討委員会 報告書

<概 要>

○ 現 状

- 定時制高校は、「多様な学びへのニーズに応える場」として、その役割が大きく変化している。
- とりわけ、学校に登校しづらい経験をした生徒は、日中の時間帯に学ぶニーズが多い傾向にある。

○ 課 題

- 日中の時間帯に学ぶニーズへの対応（昼間部の拡充）
- 修業年限の弾力化への対応（三修制の導入）
- 疎外感が強まり卒業率低下につながる教室共用（夜間部と昼間部、高校と中学校）の解消
- 昼間部・夜間部に共通した、多様な学習ニーズへの対応
- 自尊感情、自己有用感などを高め、多様な生徒個々に対する理解を深める支援
- キャリア教育的視点に立った、社会に出るために必要なスキルやコミュニケーション能力の向上、社会性及び人間関係力を高めるための支援
- 日本語学習の支援

○ 提 言（要旨）

- 「日中の時間帯に学ぶ課程」及び「3年間で卒業する仕組み」は、社会的な要請であり、神戸市立定時制高校は、これらのニーズに応えるなかで、昼間部拡充及び三修制導入に必要な教室共用の解消のため、早期に施設整備を行うべきである。また、多様な学びへのニーズに応えるためにも、将来的には多部制単位制高校の設置に取り組まれていくことが望ましい。
- 夜間部及び四修制については、学びなおしが必要な生徒にとって重要な役割を担っていることから、教育活動面における取組を一層充実していく必要がある。また、神戸市立定時制高校が「多様な学びへのニーズに応える場」だけでなく「生徒の居場所」としての役割を果たすことを期待される。そのためにも、地元企業や大学、NPO 法人といった外部団体と連携し、様々な取組を検討されたい。
- 神戸市立定時制高校は、多様な背景をもつ生徒に対し、高校卒業資格の取得を支援するだけでなく、社会で役立つ自立した人材を育成する役割を果たすべきである。